

令和6年度 珠洲市立蛸島小学校 中期学力向上プラン

年間のゴールの姿

相手に分かりやすく伝わるように、自分の考えを明確にして、主体的に表現することができる。

1 授業づくり

(1) 現状と課題 (R)

児童の課題	現状と要因・根拠となるデータ
相手に分かりやすく伝えるための力が不十分である。	<p>[現状と要因]</p> <p>○話し方や質問の仕方を示すことで、児童は相手の発言に対し、質問や意見を伝えることができるようになってきた。</p> <p>○話し合いの様子の動画や全文シートや学ボードなど、教師はねらい達成につながる様々な視覚的手立てを実践できるようになってきた。</p> <p>△教師の意識は高まってきたが、児童の姿は教師の求めるレベルまで達していない。</p> <p>→目指す児童の姿を再度、共通理解し、それに向けての取組や手立てについて話し合う必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R6 前期：検証問題 70%，ノート検証 91%，アンケート 81% ・R6 4年石川県基礎学力調査の記述問題 国語 ②1 ①0% ②67% 本文を読み、表にどんな場面や身振りかを記述する。 ・R6 6年全国学力調査質問紙「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していた」（強肯定 100%）

(2) 計画と実行 (P・D)

具体的な取組	評価項目	評価
・児童のつまずきに応じた手立てを複数考える。	実施検証「相手に分かりやすく伝わる表現をしている。」(95%)	76%
・対話につながるように、児童が多様な考えを持てるような問い合わせをする。	「つまずきに応じた手立てや問い合わせを行っている」(100%)	100%
	「対話の中で質問や意見を述べている。」(95%)	66%
	研究授業「相手に分かりやすく伝わる表現をしている。」(90%)	84%
	「つまずきに応じた手立てや問い合わせを行っている」(100%)	100%
	児童アンケート「考え方を聞いて、質問をしたり、意見や感想を言ったりすることができた。」(90%)	90%
	全校検証問題「相手に分かりやすく伝わる表現をしている。」(80%)	67%

(3) 検証と改善 (C・A)

月	評価方法（誰が、いつ）	結果	取組の成果〇・課題▲
9	授業評価表（授業者 27日） 授業参観シート	84% 60%	○つまずきに応じた手立てを複数考えることでねらい達成につながる個に応じた対応ができた。（→継続） ▲内容や構成の理解につなげるために、視覚的手立てを提示する場面が適切かどうか吟味する必要がある。 (→再度、共通理解して継続)
10	授業評価表（授業者 29日） 授業参観シート 児童アンケート（25日） 検証テスト（30日）	77% 67% 88% 56%	○普段の授業だけでなく、指導案上にもつまずきを明記し、それに対する複数の手立てを考えるのは有効だった。 (→継続) ▲ねらい達成の姿を正しく捉え、ねらいにせまる手立てや問い合わせを講じる際の教師の対応力を高めていく必要がある。 (→共通理解して、継続)
11	授業評価表（授業者 11月22日 12月12日） 授業参観シート 児童アンケート（12月16日） 検証テスト（12月17日） 教師アンケート（12月18日）	82% 100% 92% 78% 100%	○児童が考え方をキーワードや図、教師の手立てをもとに分かりやすく伝えることができるようになってきた。（継続） ▲問い合わせした後、児童の考えが広がらない場面があった。 (→どのような場面でどのような問い合わせをすれば、児童の考えが広がったか等について協議)
12			

取組の成果〇・課題▲

- 普段の授業や研究授業で、つまずきに応じた複数の手立てを考え、実践することができた。
- 児童は場に応じた声で、主体的に「質問しよう」「感想や意見を言おう」という意識が向上した。
- ▲ねらい達成に向けて、適切なタイミングで手立てを講じることができていない場面があった。
再度、共通理解し、それに向けての取組や手立てや対応方法について話し合う。

2 基盤づくり

目標	具体的な取組	評価
相手に分かりやすく伝わるように、主体的に質問や意見、感想を言うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・集会や行事の際に対話の場面を設定し、意見を交流させる。 ・よりよい100文字作文の交流に向け、児童が主体的に話し合い、それをもとに交流する。 ・10月と12月にアンケートを実施し、授業改善に生かす。 	○

